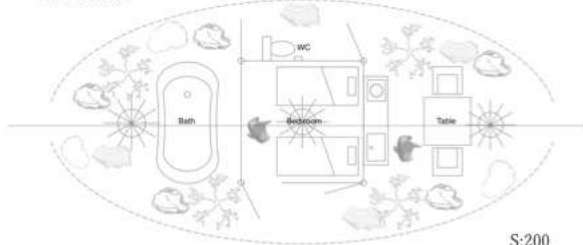


Progressive greening architecture
Glass / Grass House

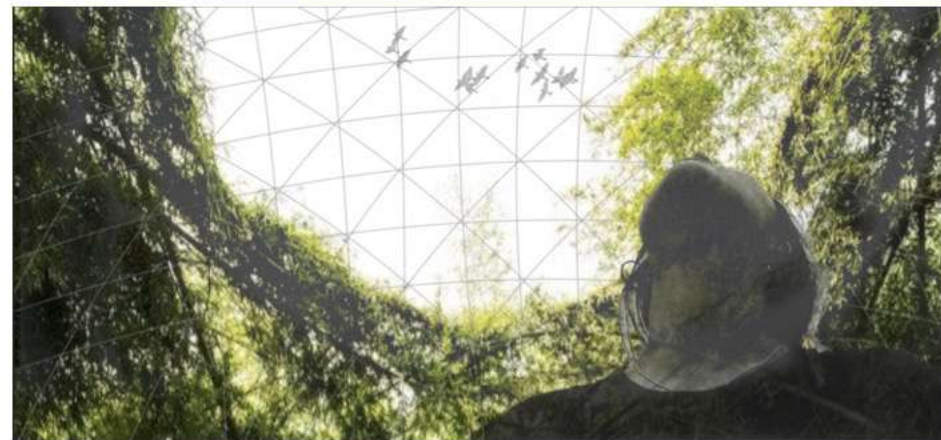


我々は森に住まうことに憧れていたのかもしれない。
だが湿度や土質などにより創られる森は、我々が求める住空間には適さなかった。
光、風、水、音から感じる森の透明性は都市にいる我々が惹かれる理想郷である。
そこで森が衰退化し始めた自然草原に森の空間を生み出す建築をつくる。
能動的かつ漸進的な緑化により森の透明性が生まれていくエコロジカルな建築。
草原の起伏で現れる森はプライベートを覆い、パブリックを自然と化す。
生活が森の一部となり、共生していくような計画と生活様式の在り方。
我々は森と横並びに生活することで確かに森に住まうのだ。

Plan Section



Cross Section



生い茂る森を輪郭に切り取られた空は、自然の森では体感出来ない新たな自然の魅力を示す。都市により空を忘れていた我々に再び空を戻す。それはモダニズムから現代にかけて成る未来軸の象徴となる。樹木から淡く溢れる光と同様、水滴のようなガラス断面もまた光を淡く透過し、内部に散乱させる。地も自然の連続的な床として中庭のようで外庭の様な曖昧な空間を生み、森の中で空を見上げる感覚に近い体験となる。